

総合的な探究の時間

平成30年・令和元年度
国立教育政策研究所『教育課程研究指定校』

プレゼン資料



府立東百舌鳥高等学校
首席 福島 洋平

本日の内容

1. 『探究』に取り組む意義は？
2. 『探究』としての3つのポイント
3. 『探究』の在り方
4. 探究学習の重要なポイント
5. 学習内容の工夫・打開策
6. 評価の仕方
7. 生徒の変容
8. 東百舌鳥での今後の取り組み

1. 『探究』に取り組む意義は？

生徒全員が『社会で必要とされる力』を一貫して、
段階的・継続的に学ぶ科目である。

【社会で必要とされる力】⇔【探究のプロセス】

- | | |
|-------------|----------|
| ① 課題(仮説)の設定 | ② 情報の収集 |
| ③ 整理・分析 | ④ まとめ・表現 |



『生徒に身に付けさせたい力』

2. 『探究』としての3つのポイント

Point1

「学力の3要素」「学校の教育目標」を踏まえた「総合的な探究の時間」の目標設定

Point2

小中学校の「総合」との違いを明確化

Point3

不適切な内容は見直す

「総合的な探究の時間」の目標設定

『探究』として、育てたい資質・能力を設定し、3年間の評価指標を作成し、視覚化



※ 別紙1

東百舌鳥で育てたい5つの資質・能力

『問題発見力』『情報収集・分析力』

『表現力』『発想力』『協働力』

総合的な探究の時間における観点別の趣旨
知識・技能 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している
思考力・表現力・判断力 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している
主体的に学習に取り組む態度 探究に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

東百舌鳥 探究で養う力	定義	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
1 問題発見力	探究課題に対して意欲的に取り組み、問題点を見つけ出す力	自らの身近な課題に対して、取り組むことができる。	自らの身近な課題に対して、積極的に取り組み、問題点を見つけ出すことができる。	自らの身近な課題に取り組み、問題点を見つけ、そこから、より大きな他の問題に関連させて取り組むことができる。	自らの身近な課題と社会の課題を関連付けて取り組み、これまでもとは違った視点で考えることができる。	自らの身近な課題と社会で起きている様々な課題を関連付けて取り組み、問題点を様々な視点から考えることができる。
2 情報収集分析力	問題を知る為や解決する為に必要な情報を集めて検証することができる	情報を収集する方法を知っている。	問題を解決するために必要な情報を収集することができる。	問題を解決するために必要な情報を複数収集し、論理的な解決に導こうという姿勢が見られる。	問題を解決するために必要な情報を収集し、かつ、それに反証するような情報も収集して、情報を多角的に分析する姿勢が見られる。	問題を解決するために必要な情報を収集し、かつ、それに反証するような情報も収集して、情報を多角的に分析する姿勢が見られる。
3 発想力	問題を解決する為のアイデアを考える力	解決するためのアイデアを考える姿勢が見られる	解決するためのアイデアを考えることができる	解決するためのアイデアを考え、そのアイデアが条件やリスクで困難になったとしても、それをふまえて、新たなアイデアを見つけることができる。	解決するための複数のアイデアを考え、その中で条件やリスクを考慮して、最も有効なアイデアを取捨選択できる。	解決するための複数のアイデアを考え、その中で条件やリスクを考慮して、現実的に有効なアイデアを発想することができる。
4 表現力	きちんと相手に伝えることができる力。伝えるために文章にまとめたり、デザインで工夫を凝らせる力	自らの意見を説明しようという姿勢がある。	自らの意見を説明することができる。	自らの意見を説得力を持って説明することができる。また、説明するために実例を活用することができる。	自らの意見を論理的に、説得力を持って、先生方や友人に発信することができる。また、説明するために文章や図などを活用できる。	自らの意見を論理的に、説得力を持って説明でき、その意見を学校内だけでなく、外部の方に向けて発信することができる。また、相手に合わせて、説明するための文章や図、話し方などを工夫できる。
5 協働力	グループの活動の際、周囲と協力して物事を進めることができる力。多様な文化や価値観を持った人々を理解し、協働できる力。	他者と物事に取り組むことが苦手であるが、自分自身と異なる考えは知ろうとする意欲がある。	他者の発言を聞き、自分の意見を伝えることができる。異なる意見の良さを理解する。	グループでの活動において、グループに貢献することを考えて活動することができる。また、異なる意見であっても、興味深く聞くことができる。	グループでの活動において、グループに貢献できる。また、グループ内の様々な意見を積極的に取り込み、グループの活動を高めることができる。	グループの様々な意見を取り込みつつも、それに反するような学校外の意見も積極的に取り込み、グループの活動を進化させることができる。

『探究』の3年計画

1) 1年次の探究のあり方

探究の基礎・基本かつ汎用性のある学習を中心とし、探究学習の意義を理解する。

2) 2年次の 探究のあり方

探究を深める学習を中心に、社会に興味を持ち、つながりを感じる。

3) 3年次の探究のあり方

進路と探究との関連を明確にし、希望する進路の実現につなげる。

小中学校の「総合」との違いを明確化

- ・次の点に注意して、取組内容をより具体的にすること
- ①『自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決する』(新学習指導要領)
- ② 探究の時間だけでなく、各教科の専門性を活かし、「探究」の質を高めること
- ③ 「探究」がより自律的に行われていること
- ④ 自己の在り方・生き方につながる課題を設定すること
- ⑤ 生徒自ら課題を設定する際に、その過程を大切にし、重視すること

不適切な内容は見直す

【課題1】

特別活動の補完的内容は、不適切

⇒ 前提として、『探究』として年間通じて一貫した授業であること

【課題2】

探究学習としてのプロセスが不透明

⇒ 実施計画に基づいて、より具体的に単元や年間での位置づけを行い内容を整理すること

特別活動を『探究』に

探究の切り口で見直し、探究学習として位置付けできる内容に変更することで、特別活動の内容も活かし、探究の時間も確保

例 実力テストのやり直し ⇒ 進路探究の一環
修学旅行の体験 ⇒ 探究学習の一環
交通安全指導 ⇒ 探究学習の1つの単元

3. 『探究』の在り方

1) 『育てたい生徒』はカリキュラム全体で補うため、
探究学習と主体的・対話的な深い学びを両立。
※『探究』だけの効果の特定は必要以上にしない。

2) 『探究』を通じて育てたい資質・能力が身についていることを生徒自身が実感できる内容とする。
※入試や外部機関で評価されることを目的とせず、外部向けの資料やデータ整理を極力避ける。

『探究』の在り方

- 3) 『探究』は進路探究と学年探究の2面の3年計画とし、継続しやすい内容とする。
- 4) 専門的な知識や技術をあまり必要とせず、基本的に担任が生徒の実態に合わせた指導しやすい内容とする。

※少人数体制や外部との連携を必須とするなどの特別な対応は必要最低限とする。

4. 探究学習の重要なポイント

- 1) プランニング(目標⇒日程⇒内容) ※ 別紙2
 - ・現状の生徒の実態に寄り添ったプランニングが最優先事項
 - ⇒ 指導する教員にとって、簡潔かつ指導し易いプランニングを作成すること
- 2) ファシリテーション(担当⇒教員⇒生徒)
 - ・教員に対する探究の時間の目標の伝え方
 - ・担当教員の負担を必要最低限にすること
 - ⇒ 事前準備・当日の内容・事後処理を徹底！

別紙2

年間計画と評価の観点 1年次

回	月	日	曜	内容	評価の観点				
					問題発見力	情報収集分析力	発想力	表現力	協働力
0	4	12	木	サボプロ「探究オリエンテーション」	○	☆		○	
1	4	28	木	疑問に思おう	○		○	○	
2	5	12	木	モノのデザインについてグループでクイズを出し合おう		○	○		
3	6	2	木	考えてきたモノを分析しよう①					
4	6	3	木	考えてきたモノを分析しよう②		○		○	
5	6	23	木	発表用ポスターづくり	○			○	
6	7	14	木	クラス内発表	○	☆			
7	7	15	木	1学期振り返り					
8	8	30	火	南大阪元気プラン					
9	9	15	木	クラス発表・探究することを決める	○				○
10	10	13	木	問題発見①	○	○			○
11	10	14	金	問題解決①	○	○			○
12	10	20	木	クリティカルシンキング・発表・振り返り①	○	○			○
13	11	11	金	振り返り①・問題発見②	○	○	○		○
14	11	24	木	問題解決②	○	○	○		○
15	11	25	金	発表②・振り返り②	○	○	○	○	○
16	12	1	木	中間発表資料作成	○	○			○
17	12	22	木	中間発表	○	○	○		○
18	1	12	木	振り返り③・ポスター作成①	○	○	○	○	○
19	1	13	金	ポスター作成②	○	○	○		○
20	1	20	金	ポスター作成③	○	○	○	○	○
21	1	26	木	クラス内発表	○	○	○	○	○
22	1	27	金	準備	○	○	○	○	○
23	1	28	土	本番	○	○	○	○	○
24	2	10	金	振り返り(個人写真撮影と並行)					
25	1	14	土	予備					

5. 学習内容の工夫・打開策

1. 各単元における明確な目標設定

- ① 探究のプロセスを知るための単元
- ② 発表のスキルを向上させる単元
- ③ エビデンスを追求するための単元
- ④ 自発的に課題・仮説を設定する単元



最終目標

生徒自らプロセスを意識して、探究学習に取り組めること

学習内容の工夫・打開策

2. 探究のプロセスをしっかりと構築すること

⇒ 段階的に学習させるための単元を設定

- ① 身近な問題 ⇒ 身の回りの疑問
- ② 国内の問題 ⇒ 地域や修学旅行先
- ③ 世界の問題 ⇒ 身近な問題から SDGs を知る

3. 生徒が体験できる単元や内容を設定

⇒ 生徒のモチベーションの向上により、課題(仮説)
設定の難しさの解消、エビデンスの追求が深まる

6. 評価の仕方

生徒の評価方法の確立

診断的評価・形成的評価・総括的評価

- 1) 各単元ごとに育てたいの資質・能力を厳選し、
生徒の理解できる評価指標を作成 ※ 別紙3
- 2) 1年次の最初と年度末にアンケートを実施し、
生徒に育てたい資質・能力の『伸び』をフィードバック ※ 別紙4
- 3) 『探究』の総括的評価は、4段階の文章表記

別紙3 生徒同士の相互評価指標

1 年 組 班

ポスターセッションの評価

項目	Oh No! 0	OK! 1	Good! 3	Excellent! 5
1 プレゼン スキル 【表現力】	スピーチの途中で <u>完全に止まったり、声が</u> ☐ <u>相手のいるところまで届いていない</u>	スピーチの途中で完全に止まりはしたが、 <u>声が</u> ☐ <u>相手のいるところまで十分に届いていた</u>	<u>途中で完全に止まる事無く</u> <u>声が相手のいるところ</u> ☐ <u>まで十分に声が届いた</u>	Good の条件でかつ <u>相手の顔を見ながら話に抑揚</u> ☐ <u>をつけ、身振り手振りを交えて</u> <u>話ができた</u>
2 ポスター レイアウト 【表現力】	ポスターの字の大きさが <u>見にくく、単色</u> ☐ <u>であり、空白の部分も目立つ状態であった</u>	ポスターの字の大きさが <u>や色使いに工夫はあるが</u> ☐ <u>空白の部分が目立つ状態であった</u>	ポスターの字の大きさが <u>や色使いに工夫があり、</u> ☐ <u>空白の部分も少なく見やすく工夫されていた</u>	Good の条件でかつ <u>図や絵、グラフなどデータを</u> ☐ <u>挿入し、視覚的にわかりやすい工夫がされていた</u>
3 気づく力 【問題発見力】	分野の南大阪の現状を <u>あまり理解できて</u> ☐ <u>いなく、こうしたら良いという所がわかっていない</u>	分野の南大阪の現状を <u>理解し、もっと良くしたい</u> ☐ <u>ところがどこなのかを理解できている</u>	分野の南大阪の現状を理解し <u>こんな世の中、社会にしたい</u> ☐ <u>という未来の理想状況が理解できている</u>	分野の南大阪の現状を理解し、 <u>現在、その分野に関わる人々</u> ☐ <u>が理想状況によってどのようなプラスの感情になるかが理解できている</u>
4 考える力 【発想力】	プランが全くなく、 <u>現状とほとんど</u> ☐ <u>変わらないことが書かれている</u>	プランはあるが考えたプランが分野の <u>理想</u> ☐ <u>状況を叶える方法となっていない</u>	考えたプランが <u>分野の理想状況を叶える</u> ☐ <u>方法となっている</u>	考えたプランが分野の理想状況を叶える方法で <u>あり、今ある技術や方法を参考に考えられている</u>
5 実現する力 【発想力】	考えたプランの <u>問題点を書き出す</u> ☐ <u>ことができていない</u>	考えたプランの問題点を書き出したが、 <u>解決</u> ☐ <u>する為の具体的な行動を考えていない</u> (具体的な行動ではないことが書かれている)	考えたプランの問題点を書き出し、 <u>少なくとも</u> ☐ <u>1つは解決する為の具体的な行動について考えられている</u>	考えたプランの問題点を書き出し <u>解決する為の具体的な行動について</u> ☐ <u>複数考えられている</u>

合計

点

別紙4 単元ごとの形成的評価

これまでの進路探究学習はどうでしたか？ ふりかえってみましょう！

作業①各項目に従って、現在の自分が達成できたことを☑チェックしてください。

①「自己分析と自己PR」

【表現力】【情報収集・分析力】

- ☐ 自分の進路について、自分自身で必要な情報を集めることができた
- ☐ 自分の強みをしっかりと自己分析できた
- ☐ マインドマップを活用して、自分の強みや、強みを生かした過去の経験を考えることができた
- ☐ マインドマップを活用して、自分の強みや、強みを生かして、将来をつくる明確なヴィジョンを考えることができた
- ☐ 自己PRになるような自分の強み、過去の経験、将来の展望のすべてを考えることができた

②「小論文と志望理由書の書き方」

【表現力】【発想力】

- ☐ 「自己分析と自己PR」で分析した自分の強みをしっかりと文章にすることができた
- ☐ 「自己分析と自己PR」で分析した過去の話（※自分の経験や実績）をしっかりと文章にすることができた
- ☐ 「自己分析と自己PR」で分析した未来の話（※将来の展望や希望）をしっかりと文章にすることができた
- ☐ 志望している進学先や就職先の求める人物像を参考にして、自己PRに生かすことができた

別紙4 年度末時の形成的評価

情報収集分析力

- ☐ レベル0…わからないことがあると答えが出るまで待つことがある
- ☐ レベル1…情報を収集するやり方を知っている
- ☐ レベル2…問題を解決するために必要な情報を収集することができる
- ☐ レベル3…問題を解決するために必要な情報を複数収集して、論理的に解決しようとしている
- ☐ レベル4…問題を解決するために必要な情報を複数収集しつつ、それに反証(解決できないことを証明する)するような情報を積極的に見つけ、解決しようという姿勢が見られる。
- ☐ レベル5…問題を解決するために必要な情報を複数収集しつつ、それに反証するような情報も収集し、情報を多角的に分析する姿勢が見られる。

発想力

- ☐ レベル0…自分が解決するより誰かが解決してくれることを期待したことがある
- ☐ レベル1…解決するためのアイデアを考えようとしている
- ☐ レベル2…解決するためのアイデアを考えることができる
- ☐ レベル3…解決するためのアイデアを考え、そのアイデアを実現することが困難になったとしても、それをふまえ、新たなアイデアを考えることができる
- ☐ レベル4…解決するための複数のアイデアを考え、その中で条件やリスクを考慮して、最も有効なアイデアを取捨選択できる。
- ☐ レベル5…解決するための複数のアイデアを考え、その中で条件やリスクを考慮して、現実的に有効なアイデアを新たに発想することができる。

表現力

- ☐ レベル0…自分の意見を言うのは恥ずかしいのでとりあえず
人の意見に合わせたことがある

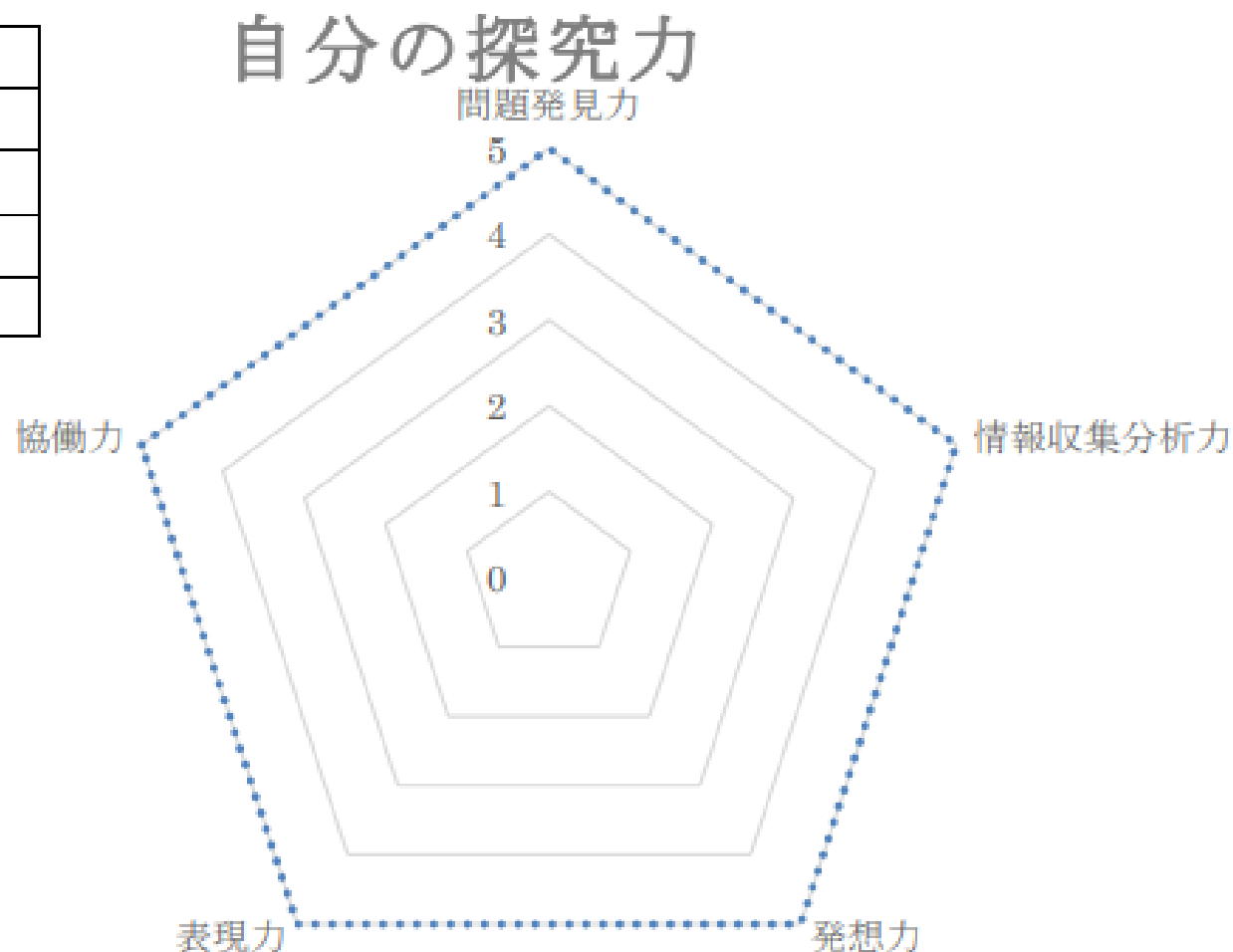
☐ レベル1…自分の意見を説明しようとしている

別紙4 単元ごとの形成的評価

作業② 現在の自分の探究力をグラフ化しよう (赤色でグラフを書こう)

探究の5つの力 数値

問題発見力	
情報収集分析力	
発想力	
表現力	
協働力	



作業③ 4月に評価した自分の探究力をグラフ化しよう
(赤以外の色でグラフを書こう)

作業④ あなたの探究力は4月と比べてどう変わった？

問題発見力



をした結果

情報集分析力



をした結果

発想力



をした結果

表現力



をした結果

協働力



をした結果

感じたこと、感想

7. 生徒の変容

【主体性の向上】 自発的に取り組む姿勢が増える。

① SDGs関連 自分たちが考える取組みを実際に行っていたイギリスのトッドモーデンという町の評議会に英文メールでその取組みについての質疑応答を実行 ※ 自主的に翻訳機を活用しながら、英語教員に正しい文章になるよう支援してもらうようになった。

② エントリーシートの書き方や面接の仕方を進路探究で取り組んだ結果、放課後などに生徒自身が自主的に取り組む姿勢が見られるようになり、進路指導がし易くなった。

③ 修学旅行での民泊にて、事前に設定した課題・仮説に対して、直接、現地の方より問題点などを話してもらったことで、その後の情報分析時のエビデンスの追求や課題に対する提案などを意欲的に取り組む生徒が増加。※修学旅行の満足度調査でも民泊での探究学習を挙げる生徒も出てきた。

生徒の変容

【生徒のプレゼンスキルが顕著に上昇】

- ① 主体的に取り組むようになることで、大多数の生徒がメモを見ずに、それぞれの言葉で発表できるようになった。
- ② テンプレートから作成する資料からフリーレイアウトの資料を提出する生徒が増えた。
- ③ 情報の正しさを証明するためのエビデンス(グラフや数値の表示、情報源など)がしっかりと記載されるようになった。
- ④ プレゼンの内容に対する唐突な質問にも、臆せず回答できる生徒が増えてきた。

生徒の変容

【進路への影響】

- ① 探究学習のSDGsに関わり、社会貢献を意識するようになり、成りたい職業や進学先を見出す生徒もでてきた。
- ② 卒業生が来校した際に、進学先で探究学習での活動(特に発表)が役立ったという話を聞く教員が増えた。
- ③ AO入試での合格率アップ

8. 東百舌鳥での今後の取り組み

1. 探究担当者と担任の負担軽減のため、探究の内容を見直し、スリム化
2. 全科目で、育てたい資質・能力を視覚化し、関連単元配列表を作成することで、育てたい資質・能力と授業内容の両面で、教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実施

カリキュラム・マネジメントの確立

東百舌鳥高生としてスクールポリシーを整理し、『総合的な探究の時間』で育てたい資質・能力を設定



教科・科目での育てたい資質・能力を視覚化

※ 別紙5



教科等横断的な視点で教育課程の編成・実施



カリキュラムマネジメントの確立

別紙5 科目〇〇で育てたい資質・能力

目標：レベル2を到達目標とする

1年	← C B A →				
2年					
3年					
	レベル1	レベル2		レベル3	
	解説を理解しようせず、正しく計算しようとし ない。	解説を理解しようとし、正しく計算できる。		解説の要点を押さえ、複雑な計算をすることができ る。	
	問題を解決するために必要 な知識・技能を用いず、思 考することをあきらめてい る。	問題を解決するために必要 な知識・技能を用いること ができる。		問題を解決するために必要 な知識・技能を用いて、思 考することができる。	
	問題に対して、取り組 むことができない。	問題に対して、取り組む ことができる。		積極的に取り組み、自発的 に課題以外の問題に取り組 むことができる。	
	他者と物事に取り組む ことが苦手である。	他者の発言を聞き、自分 の意見を伝えることができ る。		自他の意見を積極的に交換 し、問題解決に必要な情報 をもとに、解答を導くこと ができる。	
目安	1	2	3	4	5
	C	B		A	

今後とも御指導・ご鞭撻を宜しくお願い致します。
ご清聴ありがとうございました。